

浄光寺

宗派：真宗大谷派

創建：1464（寛正5）年

浄光寺は石川康正が1461（寛正2）年に蓮如上人によって剃髪得度し、法名「澤意真（いしん）」となって、1464（寛正5）年に浄光寺を草創し、蓮如上人より賜った六字名号を安置して弘法につとめた。その後、約100年を経て1563（永禄6）年の永禄一揆（三河一向一揆）によって焼失したが、徳川家康公は1600（慶長5）年の関ヶ原合戦に勝利し、天下の大勢を決した後、1601（慶長6）年に現在の境内地を寄進され浄光寺は再建された。

それから、1619（元和5）年には、板倉伊賀守勝重公の兄忠重公より本佛本尊を、また母、妙円尼より親鸞聖人の真影の寄進を受けて今日に至っている。なお、太子七高僧の御影はこの後、約20年後の寛永7年宣如上人の御免のものである。徳川家や板倉家より境内地の寄進を受けたが、3代将軍家光公より3石1斗の朱印地の寄進を受け、明治維新にいたっているが、大谷派の末寺のうち幕末まで朱印状を受けていた寺院は全国で約30ヶ寺ということである。

1601（慶長6）年に再建された浄光寺はその後、1688（元禄元）年に建て替えられたが、江戸時代末期1831（天保2）年より6ヶ年をかけて現在の本堂、庫裡、玄関が再建された。現在の山門（薬医門）は1688（元禄元）年に建てられたものである。

境内の「大銀杏」は昭和50年に、「はまぼう」は昭和60年に岡崎市の天然記念物指定を受けた。銀杏は岡崎市内最大で、高さ200m、幹回り4m、根回り8m、枝張り15mある。はまぼうは樹齢65年と推定され、1930（昭和5）年の春、西尾市の名倉闇一郎氏が渥美半島の自生地から幼苗を取り寄せたものである。以前は、樹高が6m以上もあったが台風によって幹が途中で折れ、萌芽した若枝により一見株立ちの樹姿であるが、根元は老木を思わせる。7月下旬に黄色い花が咲く。

浄光寺の由緒は2つあり、以下にそれを転記した。

・古い由緒

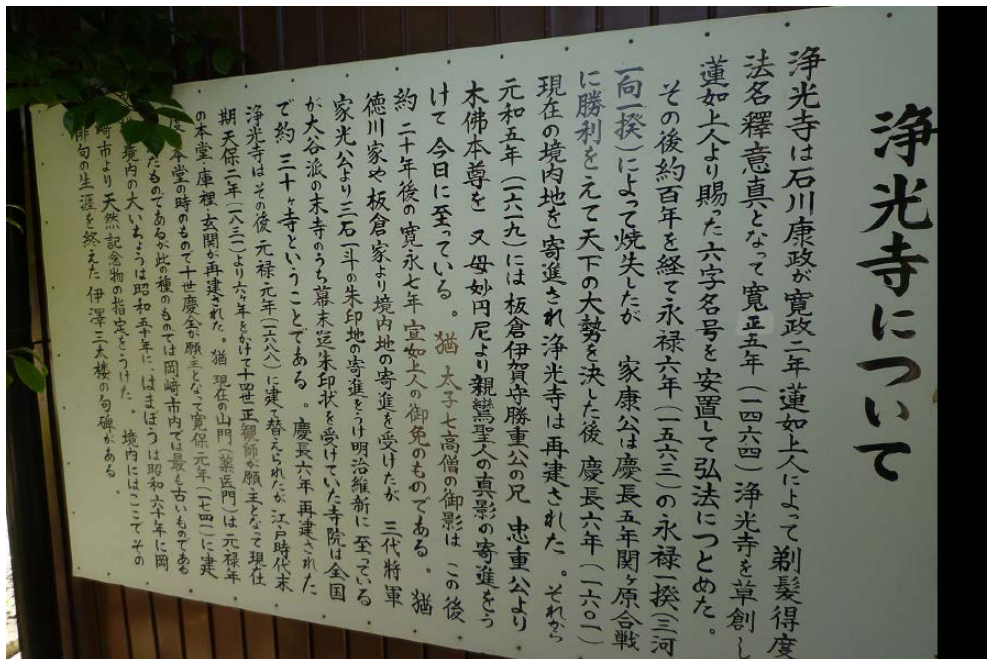
浄光寺について

浄光寺は石川康政が寛政二年蓮如上人によって剃髪得度し、法名釋意真となって、寛正五年（1464）浄光寺を草創し、蓮如上人より賜った六字名号を安置して弘法につとめた。

その後、約百年を経て永禄六年（1563）の永禄一揆（三河一向一揆）によって焼失したが、家康公は慶長五年、関ヶ原合戦に勝利を得て天下の大勢を決した後、慶長六年（1601）、現在の境内地を寄進され浄光寺は再建された。

それから、元和五年（1619）には板倉伊賀守勝重公の兄、忠重公より木佛本尊を、又、母妙円尼より親鸞聖人の真影の寄進をうけて今日に至っている。猶、太子七高僧の御影はこの後、約二十年後の寛永七年、宣如上人の御免のものである。猶、徳川家や板倉家より境内地の寄進を受けたが、三代将軍家光公より三石一斗の朱印地の寄進を受け明治維新に至っているが大谷派の末寺のうち、幕末迄朱印状を受けていた寺院は全国で三十ヶ寺ということである。

慶長六年再建された浄光寺はその後、元禄元年（1688）に建て替えられたが、江戸時代末期天保二年（1831）より六ヶ年をかけて十四世正観師が願主となって現在の本堂・庫裡・玄関が再建された。猶、現在の山門（薬医門）は元禄年度の本堂の時のもので十世慶全が願主となって寛保元年（1741）に建てられたものであるが、この種のものでは、岡崎市内では最も古いものである。猶、境内の大いちょうは昭和五十年に、はまぼうは昭和六十年に岡崎市より天然記念物の指定を受けた。境内には、ここでその俳句の生涯を終えた伊澤三太楼の句碑がある。



浄光寺説明書(旧) 20160518

・新しい由緒

真宗大谷派 良永山 浄光寺

開基意真上人は蓮如上人の弟子となって剃髪得度し、1461年に、中島郷に浄光寺を創建した。その後、1563年の永禄一揆によって、創建以来九十八年で焼失した。そこで、五世教快は相州愛甲郡の縁故をたよって難を避けた。1583年家康によって宗門赦免の後、1587年中島に帰り板倉勝重の母妙円尼により、中島の板倉屋敷の提供を受けて浄光寺の仮御堂とした。

六世教尊は1601年（慶長六年）に家康より四石八斗の朱印地を受けて、本格的な寺院の再建を果たした。1613年頃であろう。この後も、板倉勝重の兄忠重（木工）は木佛本尊を奉納し、勝重や長子の重昌は土地を寄進し、母妙円尼は親鸞聖人の御影を寄進するなど、板倉家は浄光寺の復興に大変な協力をしている。これは浄光寺の再興の始まりは、妙円尼の屋敷であったから、「お母さんのお寺」或いは「おばあさんのお寺」という感じであったのであろう。

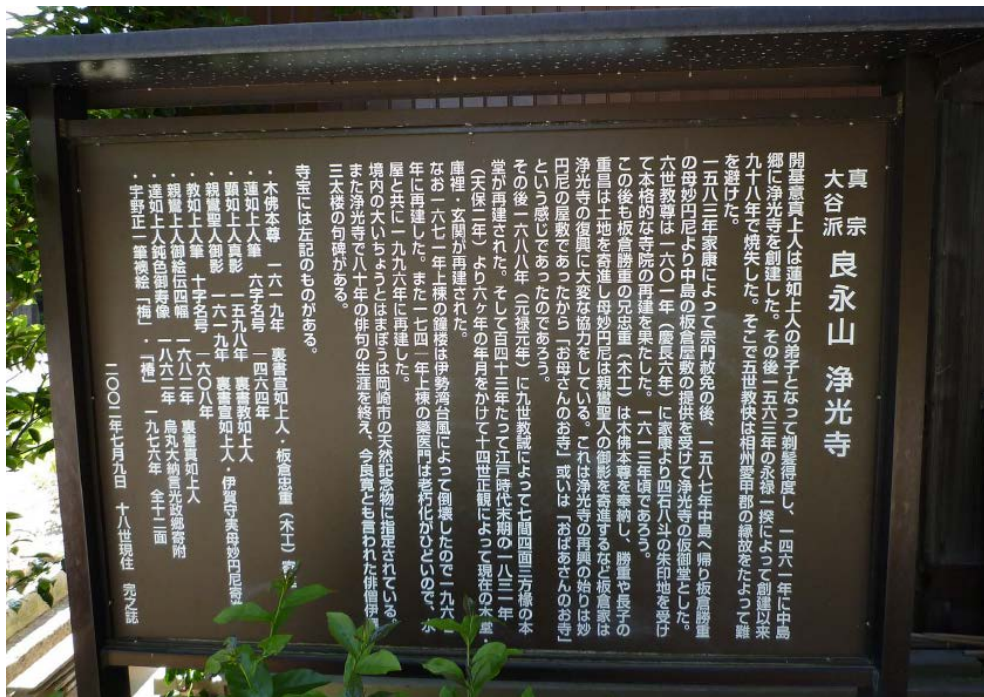
その後、1688年（元禄元年）に九世教誠によって七間四面三方椽（たるき）の本堂が再建された。そして、百四十三年たって江戸時代末期の1831年（天保二年）より六ヶ年の年月をかけて十四世正観によって現在の本堂・庫裡・玄関が再建された。なお、1671年上棟の鐘楼は伊勢湾台風によって倒壊したので、1967年に再建した。また、1741年上棟の薬医門は老朽化がひどいので、水屋と供に1996年に再建した。

境内の大いちょうとはまぼうは岡崎市の天然記念物に指定されている。また、浄光寺で八十年の俳句の生涯を終え、今良寛とも言われた俳僧伊澤三太楼の句碑がある。

寺宝には次のものがある。

- ・木佛本尊 1619年 裏書宣如上人・板倉忠重（木工）寄進
- ・蓮如上人筆 六字名号 1464年
- ・頭如上人真影 1598年 裏書教如上人
- ・親鸞聖人御影 1619年 裏書宣如上人・伊賀守実母妙円尼寄進
- ・教如上人筆 十字名号 1608年
- ・親鸞上人御絵伝四幅 1682年 裏書真如上人
- ・達如上人鈍色御寿像 1862年 烏丸大納言光政郷寄附
- ・宇野正一筆襖絵「梅」・「春」 1976年 全十二面

2002年7月9日 十八世現住完之誌



浄光寺説明書(新) 20160518

岡崎市の指定文化財の説明があり、以下にそれを転記した。

・岡崎市指定文化財 浄光寺

岡崎市指定文化財 浄光寺

天然記念物 浄光寺のイチョウ 一本

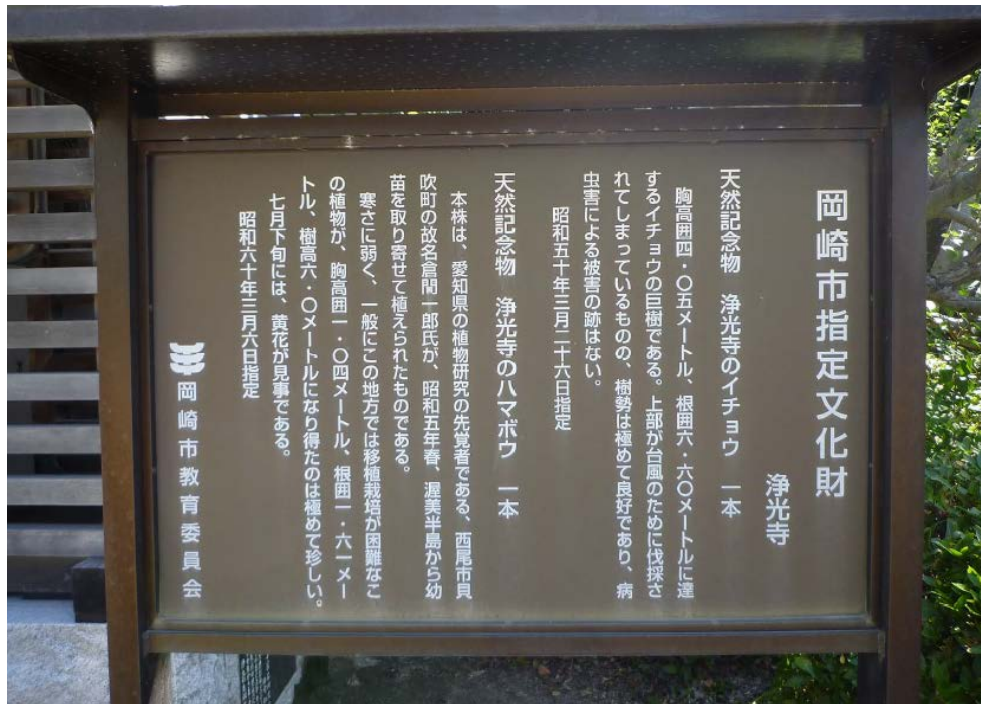
胸高囲4.05メートル、根囲6.60メートルに達するイチョウの巨樹である。上部が台風のために伐採されてしまっているものの、樹勢は極めて良好であり病虫害による被害の跡はない。

天然記念物 浄光寺のハマボウ 一本

本株は、愛知県の植物研究の先覚者である、西尾市貝吹町の故名倉間一郎氏が、昭和5年春、渥美半島から幼苗を取り寄せて植えられたものである。

寒さに弱く、一般にこの地方では移植栽培が困難なこの植物が、胸高囲1.04メートル、根囲1.61メートル、樹高6.0メートルになり得たのは極めて珍しい。七月下旬には、黄花が見事である。

昭和60年3月6日指定 岡崎市教育委員会



浄光寺説明 岡崎市指定文化財 20160518

浄光寺には今良寛とも言われた俳僧伊澤三太楼の句碑があり、その句碑には以下の内容が記されている。三太楼は俳号で僧としての名前は観了である。観了は幸田町の農家に生まれ29歳の時に浄光寺にきた。句碑は浄光寺十八世の完之が観了の七回忌に墓の代わりに建てたと思われる。

正面	雪嶺の上に雪雲停滞す 三太楼
右側面	日盛りの一客伊澤三太楼 素十
左側面	俳僧のいつもの紺衣着ぶくれて たかし
裏面	伊澤観了が晩年特に愛好した句集に自序とした二句を刻みて 七回忌辰の記念とす 昭和58年2月 十八世釋完之建立

浄光寺には伊澤三太楼の句碑がもう一つある

鶯の声遠き日の寫経かな

浄光寺には伊澤三太楼の真筆なる12ヶ月の句が障子仕立ての枠に入っている。

1月	元日の笈（かけい）奏づる野の光
2月	梅の茶屋筏をつなぐ岩阿（あ）りぬ
3月	縁下りて十歩春水に筆洗う
4月	柴刈りて無視はゐしは堂守（どうもり）山桜
5月	新緑の温泉宿が街の上に見ゆる
6月	梅雨雲の日こぼれ海の真中かな
7月	高嶺より晴れて蟬（せみ）鳴く村となる
8月	昼寝うれし阿弥陀如来に見まわれ
9月	子規全集借り来てかざり子規祀（まつ）る
10月	稲架（はざ）落ちしものが鼠となり走る
11月	柿の村日は早や嶺の寺に落つ
12月	雪嶺の上に雪雲停滞す



伊澤三太楼障子仕立ての枳表 20160521



伊澤三太楼障子仕立ての枳裏 20160521

伊澤三太楼はまた、書も数多く残している。

浄光寺には昔、六ツ美句会として集まっていた仲間の句碑がある。伊澤三太楼をはじめとする合同句碑である。2016年時点では杉浦蒼翠さんのみ存命である。

伊澤三太楼	鳶（とび）の輪の甚（はなは）だ高し稲架（はざ）つくり
大田巨水	月乗せて幡豆の山なみ昏れにけり
杉山一笑	梅雨の蝶御堂（みどう）の中を舞ひ居たり
岡安むつみ	春著着て遊ぶ娘（こ）水田きらきと
黒柳美村	月雲にかくれて暈（うん）の走りをり
斎藤陽春	ダムに影落して山の眠りけり
牧野月寒	浸し糲（もみ）の縄断つばかり山雨かな
小林占秋	さなぶりのぶどう酒母も少し飲む
朝日祐生	月明に川千鳥翔（かけ）つ羽音かな
加藤吟歩	囀（さえずり）を揚げば雲の流れ行く
米津碧占	木々芽吹く枯色蒼然たる中に
杉浦蒼翠	つと走りたるさざ波の蜷（にな）を消す

浄光寺には十八世完之住職の妻の御在所の母君・愛子さんの短歌が記された碑がある。御在所は西尾市一色町の普元寺である。

よそおいをとけば煩惱うずまけるむねがそのまま鏡にうつる

浄光寺の山門を入った右手には、岡崎の俳人で明治・大正・昭和の初めにかけて活躍し、佐藤紅緑や伊藤左千夫などと親交のあった岡田撫吟が浄光寺の樹齢500年という天然記念物の銀杏を詠んだ句碑がある。この句碑は十八世完之住職により、昭和58年に建立された。

門入れば薫風銀杏の大樹かな

【石川康正（1500～没年不詳）】

石川康正（いしかわ やすまさ）の父は石川清兼で、石川康正は石川数正の父である。1563（永禄6）年、西三河を中心に三河一向一揆が発生し、一向宗を支持している徳川家臣の中には、家族が敵味方に分かれて戦う者も多かった。本宗寺（三河三ヶ寺）の門徒家臣の中でも大物で、三河の本願寺門徒の総代であった石川家も例外ではなく、当主の康正は岡崎城代を務めていたが、康正は三河一向一揆の大將分として家康に反抗、嫡子の数正（かずまさ）や、弟の家成（いえなり）は浄土宗に改宗して家康に従った。渡辺守綱や本多正信といった多くの徳川家臣が味方した三河一向一揆衆であったが、やがて松平家康ら徳川方の奮戦や家康の機転もあり沈静化した。

石川家の家系図：正康—親康—忠輔—清兼—康正—数正—康長

【妙円尼（没年不詳）】

妙円尼は本多光次の娘で、板倉康正の妻で、板倉勝重の母である。

【高野素十（1893～1976）】

茨城県北相馬郡山王村（現・取手市神住）出身。新潟県立長岡中学、一高を経て東大医学部卒業後、同大法医学教室時代に水原秋桜子の手引きで俳句を始め、1923年高浜虚子に師事した。虚子の唱導する〈客観写生〉〈花鳥諷詠〉の精神と方法に徹し、昭和初期「ホトトギス」雑詠欄で活躍した。秋桜子、山口誓子、阿波野青畝（せいほ）とともに4Sと称せられた。

【松本たかし（1906～1956）】

東京都出身の俳人。本名は松本孝。能楽師の家に生まれ能を志したが、病のために断念し、高浜虚子に師事し俳句に専心した。俳誌「笛」を創刊・主宰。芸術性の高い高雅な句を作り、「ホトトギス」では川端茅舎、中村草田男らと並び称された。

【石川成章（1872～1945）】

愛知県碧海郡下中嶋村（現・岡崎市中島町字本町）の浄光寺で石川嶺観の四男として生まれる。浄土真宗三河教校に学ぶ。1896（明治29）年7月に東京帝国大学理科大学地質学科に入学。1899

(明治 32) 年 7 月、同大学を卒業。同年 9 月、東京真宗中学校講師に就任。それからのち東京高等師範学校、陸軍中央幼年学校、早稲田大学などで教鞭をとった。1917 (大正 6) 年 12 月、京都帝国大学工学部ならびに理学部の講師を嘱託される。晩年は郷里岡崎市の浄光寺に帰り、真宗大谷派参事の職に就いた。号を簡堂といった

浄光寺歴代住職							
開基	意真上人	6 世	教導	11 世	慶智	16 世	成章
2 世	教梁	7 世	慶(敬)了	12 世	慶恵	17 世	法賢
3 世	教伝	8 世	教(慶)珍	13 世	慶諦	18 世	完之
4 世	教慰	9 世	敬(慶)戒	14 世	正観	19 世	
5 世	教快	10 世	慶全	15 世	嶺観	20 世	



浄光寺 20150806



浄光寺 20150806



浄光寺の鐘楼 20160519



浄光寺の伊澤三太楼句碑 20160519



浄光寺の銀杏



浄光寺のはまぼう



浄光寺桜 20160410



伊澤三太楼句碑 20160521



岡田撫吟句碑 20160521



愛子句碑 20160521



六ッ美句会句碑 20160521



浄光寺梅 20170304



伊澤三太樓書 20160521



伊澤三太樓書 柴田 彰氏提供 20160521



第15世石川嶺觀 1911(明治44)年1月3日
浄光寺提供



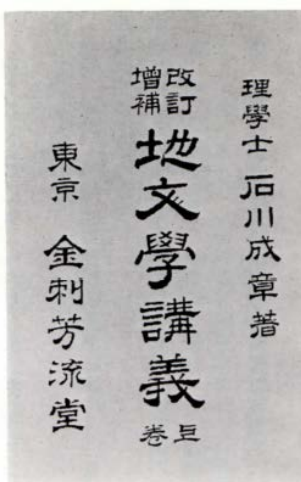
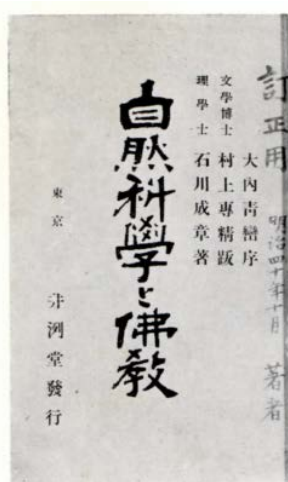
第16世石川成章60歳 1932(昭和7)年5月17日
成章は嶺觀の4男である。浄光寺提供



石川成章 1932年 浄光寺提供



1916年 浄光寺提供



石川成章著書の表紙 浄光寺提供



浄光寺山門と大いちょう
1935(昭和10)年 浄光寺提供



浄光寺山門 石川法賢59歳 1936(昭和11)年



浄光寺本堂 1939(昭和14)年 浄光寺提供



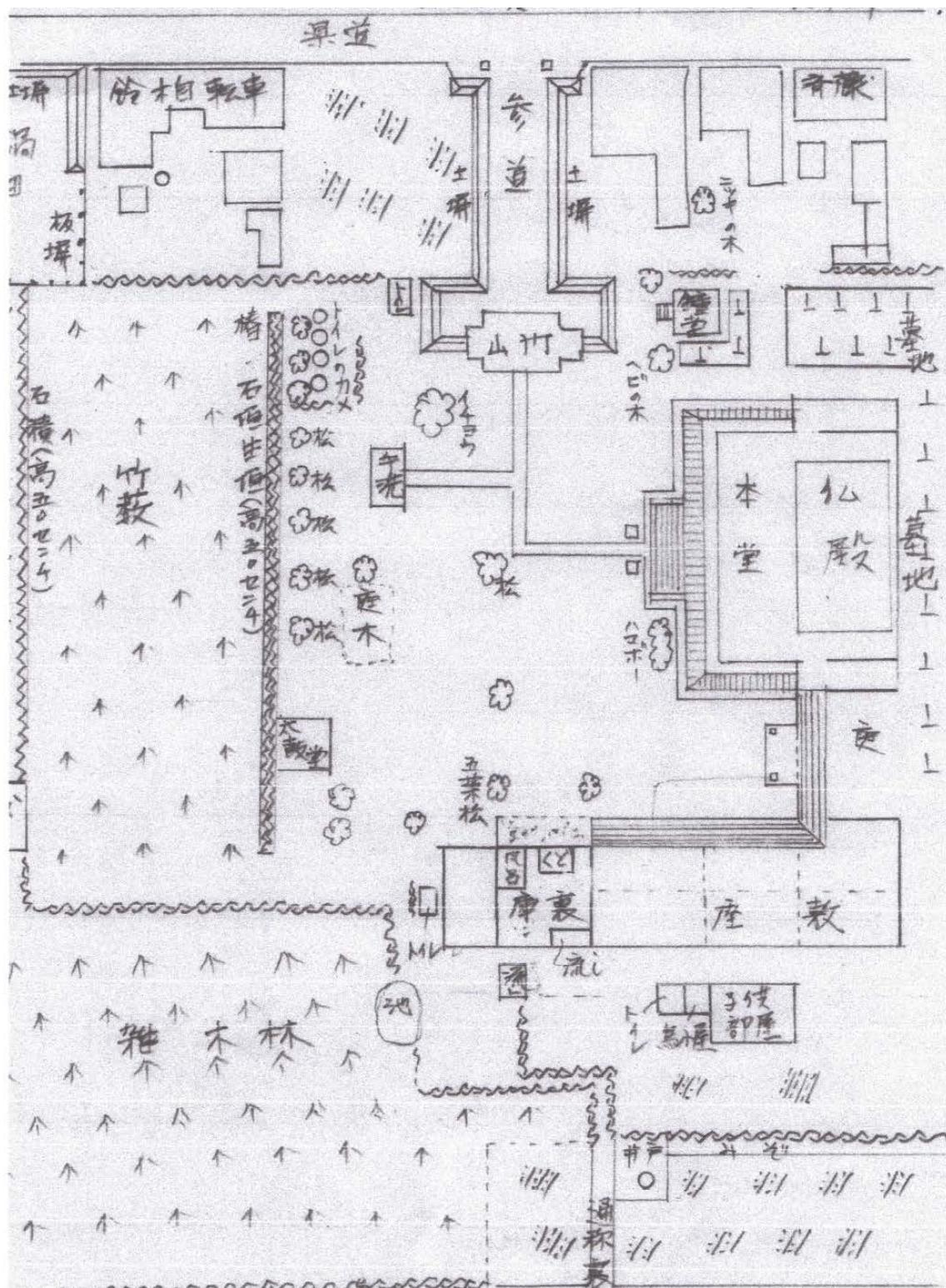
16世
18世完之21歳 成章73歳

1944(昭和19)年5月3日 浄光寺玄関前 浄光寺提供



第17世石川法賢65歳 1942(昭和17)年6月12日
浄光寺提供

1955（昭和30）年頃の浄光寺の境内図（本町、鈴木喜信氏作成）





本項は以下の資料を引用している。

〔石川成章記念集〕（非売品）

編者・発行者：伊藤信義

発行所：伊藤病院（大阪市旭区新森 2 丁目 24 番 20 号）

発行日：1980（昭和 55）年 7 月 22 日

印刷・製本：（株）洋洋堂

〔六ツ美村誌〕

編者：六ツ美村是調査会

発行：六ツ美村是調査会

発行日：1926（大正 15）年 12 月 1 日

発行所：日新堂書店

印刷所：活版印刷所

〔岡崎の人物史〕

著者：岩月 栄治

編集：岡崎の人物史編集委員会

発行日：1979（昭和 54）年 1 月 5 日

印刷所：研文印刷社

「板倉勝重」（P89）、「野本新十郎・渡邊弥蔵」（P99）、「早川龍介」（P150）、「鶴田勝蔵」（P190）、「太田功平」（P192、土井町）、「石川成章」（P249）の記述がある。

〔わたしたちのふるさと 六ツ南 114 選〕

監修者 総代会長 平井 良美

社教委員長 近藤 武美

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 6 年児童 114 名
（平成 25 年 3 月 19 日卒業）

編者 岡崎市立六ツ美南部小学校 6 年担任

権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛

発行日 2013（平成 25）年 3 月 1 日 初版発行

印刷所 ブラザー印刷株式会社

製本 ブラザー印刷株式会社

発行 岡崎市立六ツ美南部小学校